

[048]言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4773106>

出版情報：言語文化論究. 48, 2022-03-17. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

退職教授研究業績表

谷口秀子 教授

I. 著書

1. 『グリム童話と表象文化——モチーフ・ジェンダー・ステレオタイプ——』, 大野寿子編, 勉誠出版, v+429ページ, 2017年7月. (共著)
2. 『言語と文化の対話』, 山崎和夫・松村瑞子編, 花書院, iv+274ページ, 2012年8月. (共著)
3. 『新世紀の英語文学——ブッカー賞総覧2001-2010』, 高本孝子・池園宏・加藤洋介編, 開文社出版, xvi+392ページ, 2011年10月. (共著)
4. 『ジェンダーを超えるヒロインたち——子どもの本における多様な女性像の提示を目指して——』 (九州大学大学院言語文化研究院言語文化叢書 XIII), iii+83ページ, 2004年2月. (単著)
5. 『ウィリアム・ゴールディングの視線——その作品世界——』, 吉田徹夫・宮原一成編, 開文社出版, viii+428ページ, 1998年6月. (共著)
6. 『英語・英文学研究の再構築』, 新村昭雄・安徳軍一・山崎和夫編, 九州大学出版会, 446ページ, 1993年5月. (共著)

II. 学術論文

1. 「*Petronella* における女性ヒーローと男性表象」, 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第56号, pp. 63-71, 2021年3月. (単著)
2. 「わたなべまさこ『おかあさま』における修辭的男装——ジェンダー越境とジェンダー・イメージ——」, 『日本語とジェンダー』(日本語ジェンダー学会), 第18号, pp. 1-16, 2019年12月. (単著)
3. 「現代児童文学における「虫めづる姫君」の語り直しと再構築」, 『日本ジェンダー研究』(日本ジェンダー学会), 第19号, pp. 73-86, 2016年10月. (単著)
4. “*The Marvelous Village Veiled in Mist and Spirited Away*,” 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第51号, pp. 1-8, 2016年3月. (単著)
5. 「*Girl in Blue* における男装」, 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第49号, pp. 1-6, 2014年3月. (単著)
6. 「「僕はかぐや姫」における「男装」」, 『日本語とジェンダー』(日本語ジェンダー学会), vol. XII, pp. 13-27, 2012年6月. (単著)
7. “To Eat or Not To Eat: Fear and Safety in Yuichi Kimura’s *One Stormy Night*,” 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第28号, pp. 209-216, 2012年3月. (単著)
8. “The Reception and the Adaptation of Diana Coles’ *The Clever Princess* in Japan,” 『言語文化論究』

- (九州大学大学院言語文化研究院), 第25号, pp. 131-140, 2010年3月。(単著)
9. 『『まんがで読破』現象から見えてくるもの——語り直される名作——』、『第10回東アジア言語文化フォーラム予稿集』(東アジア言語文化研究会), pp. 93-97, 2009年3月。(単著)
 10. “Yamambas, an Alternative to Gender-Stereotyped Heroines, in Contemporary Children’s Books in Japan: A Step Forward from Tough Heroines in Comics,” 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第24号, pp. 67-78, 2009年2月。(単著)
 11. 「現代の山姥に見る女性表象——力強いヒロインとしての山姥——」, 『東アジア言語文化研究』(東アジア言語文化研究会), 第9集, pp. 279-294, 2008年10月。(単著)
 12. 「ヒロインとしての魔女——『らくだ魔女はプリンセス』を中心に——」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第22号, pp. 41-47, 2007年2月。(単著)
 13. 「子どもの本における働く母親像——『てっちゃんってへんな子、だけど…』に見る現状と展望——」, 『言語文化論究』, 第21号, pp. 41-47, 2006年3月。(単著)
 14. 「子どもの本とジェンダー」, 『言語と文化のジェンダー』(九州大学大学院言語文化研究院言語文化叢書 XV), pp. 1-19, 2005年3月。(単著)
 15. 「アニメと「グローバル化」——『ソニック X』の世界観——」, 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第40号, pp. 35-45, 2005年2月。(単著)
 16. 「階級、人種、エスニシティ——マルチカルチュラリズムと *Jack and the Beanstalk* ——」, 『社会開発学をめぐって』(九州大学大学院言語文化研究院言語文化叢書 IX), pp. 87-102, 2004年2月。(単著)
 17. 「多文化主義とシンデレラ——*Princess Furball* とディズニーの *Cinderella* ——」, 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第39号, pp. 89-103, 2004年2月。(単著)
 18. 「山姥の解体と再構築——子どもの本の主人公としての山姥——」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第19号, pp. 171-178, 2004年1月。(単著)
 19. 「変わりゆく女性像・男性像——絵本におけるジェンダー排除への試み——」, 『韓日言語文化研究』(韓日言語文化研究会), No. 4, pp. 181-204, 2003年12月。(単著)
 20. 「ジェンダー・バイアスからジェンダー・フリーへ——結婚をめぐる *Babette Cole* の語り直し——」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第18号, pp. 63-76, 2003年6月。(単著)
 21. 「ジェンダーフリーと異形——絵本の中の女性像——」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第17号, pp. 29-43, 2003年2月。(単著)
 22. 「*Barbara Cartland, Tempted to Love* ——男装、ジェンダー、セクシュアリティ——」, 『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第38号, pp. 67-77, 2003年2月。(単著)
 23. 「大学生に必要な英語力とは何か——文法・読解力神話を超えて——」, 『大学教育』(九州大学), 第8号, pp. 59-67, 2002年3月。(共著: 谷口秀子, 松村瑞子)
 24. 「少女漫画における男装——ジェンダーの視点から」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第15号, pp. 105-114, 2002年2月。(単著)
 25. 「子どもの絵本と社会——*Curious George* の文明観——」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第12号, pp. 29-34, 2000年8月。(単著)
 26. 「おとぎ話のジェンダーとフェミニズム」, 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第11号, pp. 29-38, 2000年3月。(単著)

27. 「“A Fulfilled Woman, a Wife and Mother”? — William Golding の *The Pyramid* における女性」, 『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第45集, pp. 51-63, 1995年2月。(単著)
28. 「*The Pyramid* における階級社会と自己認識」, 『北九州大学文学部紀要』(北九州大学文学部), 第38号, pp. 47-65, 1987年10月。(単著)
29. 「*Lord Jim* における ‘fact’ と ‘truth’」, 『北九州大学文学部紀要』(北九州大学文学部), 第37号, pp. 51-66, 1987年3月。(単著)
30. 「*Under Western Eyes* における言葉の問題」, *Cairn* (九州大学大学院英語学英文学研究会), 第27号, pp. 29-44, 1984年3月。(単著)
31. 「『密偵』における都市と人間」, *Cairn* (九州大学大学院英語学英文学研究会), 第26号, pp. 61-73, 1983年12月。(単著)
32. 「ジョウゼフ・コンラッド: 『闇の奥』—— 人間性の闇の問題」, *Cairn* (九州大学大学院英語学英文学研究会), 第25号, pp. 47-61, 1982年11月。(単著)
33. 「Joseph Conrad: 『闇の奥』—— その内的主題」, *Cairn* (九州大学大学院英語学英文学研究会), 第23号, pp. 119-127, 1981年1月。(単著)

Ⅲ. 翻 訳

1. 『可視の闇』ウィリアム・ゴールディング著 (William Golding, *Darkness Visible*), 開文社出版, 470ページ, 2006年6月。(共訳)

Ⅳ. 学会発表, 基調講演等 (すべて単独)

1. “The Pedagogic Aspect of Girl-Power Anime: *HUGtto! Precure* as a Tool to Promote Gender Equality and Female Empowerment,” The 25th Biennial Congress of The International Research Society for Children’s Literature (The Catholic University of Chile, Chile: Online), 2021年10月.
2. “The Silent Mothers in *Spirited Away* and Other Miyazaki Films,” The 24th Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature (Stockholm City Conference Centre, Sweden), 2019年8月.
3. 「『賢さ』か『冒険』か—— フェミニズム童話の翻訳をめぐる——」(基調講演), 第20回東アジア日本語・日本文化フォーラム (上海外国語大学・中華人民共和国), 2019年3月.
4. “The Japanese Translations of Feminist Fairy Tales Written in English,” Taiwan Children’s Literature Research Association 8th Annual Conference (Soochow University, Taiwan), 2018年11月.
5. 「フェミニズム童話と『アリス』」, 日本ルイス・キャロル協会例会 (東京都・タワーホール船堀), 2018年3月.
6. “Children’s Literature as Remedies for Children: The Child Misfit and the Adult Healer and Mentor in *The Witch of the West Is Dead*,” The 23rd Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature (York University, Canada), 2017年8月.
7. 「おとぎ話の転覆とフェミニズム童話」(シンポジウム・パネリスト), 日本語ジェンダー学会第17回年次大会 (群馬大学荒牧キャンパス), 2016年6月.
8. “*The Marvelous Village Veiled in Mist* and Its Influence on *Spirited Away*,” Kyushu University and University of Arizona Symposium: Topics in Language, Literature and Culture (University of Arizona, USA), 2016年3月.

9. 「子どもの本とジェンダー表象——近年の絵本を中心に——」, 2015年文化の越境とジェンダー国際シンポジウム (上海交通大学・中華人民共和国), 2015年10月.
10. “The Representation of the Child and Childhood in *The Princess Who Loved Insects*,” The 22nd Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature (The University of Worcester, The United Kingdom), 2015年8月.
11. 「Fanny Campbell とその「娘」たち——*Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* と *Girl in Blue* における男装のヒロインを中心に——」, 日本イギリス児童文学会第44回研究大会 (文教大学越谷キャンパス), 2014年11月.
12. 「ジェンダー越境の模索——『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に——」, 日本語ジェンダー学会第15回年次大会 (北九州市立大学北方キャンパス), 2014年6月.
13. “*Spirited Away*: Is It More Than Just an Animated Version of *The Marvelous Village in Mist*?” The 21st Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature (University of Maastricht, The Netherlands), 2013年8月.
14. “The Reception of and the Reaction to Diana Coles’ *The Clever Princess* in Japan” (国際シンポジウム・パネリスト), 日本イギリス児童文学会第42回研究大会 (大東文化大学板橋キャンパス), 2012年11月.
15. “Gender-Sensitive Representations of Boys and Girls in Contemporary Japanese Children’s Books,” 2012 International Conference on Children’s Literature (Soochow University, Taiwan), 2012年11月.
16. 「子どもの本などにおけるジェンダーとジェンダー解消の試み」(シンポジウム・パネリスト), 日本語ジェンダー学会第13回年次大会 (武蔵野大学有明キャンパス), 2012年6月.
17. 「『あらしのよるに』における友情と葛藤」, 第13回東アジア日本語・日本文化フォーラム (仁川大学校・大韓民国), 2012年2月.
18. “To Eat or Not to Eat: Fear and Safety in *Arashi no Yoru ni*,” The 20th Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature (The Queensland University of Technology, Australia), 2011年7月.
19. 「日本における『アリーテ姫の冒険』への反応」, 第12回東アジア日本語・日本文化フォーラム (九州大学), 2011年2月.
20. 「Yann Martel, *Life of Pi* を読む」, 福岡現代小説談話会 (西南学院大学), 2010年6月.
21. 「原作と翻訳のあいだ」, 第11回東アジア言語文化フォーラム (上海外国語大学・中華人民共和国), 2010年3月.
22. “Reception and Adaptation of Diana Coles’ *The Clever Princess* in Japan,” The 19th Biennial Congress of International Research Society for Children’s Literature (Goethe University, Germany), 2009年8月.
23. 「『フェミニズム童話』の受容と変容」, 日本比較文学会2009年度春期九州支部大会 (九州産業大学), 2009年7月.
24. 「『まんがで読破』現象から見えてくるもの——語り直される名作——」, 第10回東アジア言語文化フォーラム (仁川大学校・大韓民国), 2009年3月.
25. 「子どもの本と山姥——女性像と自然観——」, 第9回東アジア言語文化フォーラム (九州大学西新プラザ), 2007年12月.
26. “Yamambas in Contemporary Children’s Books in Japan: The Power of Yamamba Heroines,” The 18th

Biennial Congress of International Society for Children's Literature (Kyoto International Conference Center, Japan), 2007年8月.

27. 「『冒険物語』としての『マダガスカル』」, 日本イギリス児童文学会西日本支部例会 (梅花女子大学), 2006年3月.
28. 「英米の子どもの本とマルチカルチュラルイズム——三つのシンデレラ物語を中心に——」, 日本英文学会九州支部第57回大会 (九州大学), 2004年10月.
29. 「ジェンダーを越えるヒロイン像——最近の絵本を中心に——」, 第4回韓日言語フォーラム (九州大学), 2003年2月.
30. 「『密偵』にみるコンラッドの都市観」, 日本英文学会九州支部第36回大会 (九州大学), 1983年11月.
31. 「コンラッド初期の夢想家たちの夢と自己認識——『島の流れ者』『ロードジム』『闇の奥』を中心に」, 日本英文学会九州支部第34回大会 (筑紫女学園短期大学), 1981年11月.
32. 「コンラッドの内的探求に関する一考察——『闇の奥』を中心に——」, 日本英文学会九州支部第33回大会 (鹿児島大学), 1980年10月.

V. 書評, 記事 (すべて単独)

書評

1. 「野口芳子著『グリム童話のメタファー——固定観念を覆す解釈』」, 『日本ジェンダー研究』(日本ジェンダー学会), 第20号, pp. 81-82, 2017年9月.
2. 「書評: 野口芳子著『卒論を楽しもう——グリム童話で書く人文科学系卒論——』」, 『日本ジェンダー研究』(日本ジェンダー学会), 第15号, pp. 137-138, 2012年9月.

記事

1. 「女性学・男性学」, 『日本ジェンダー学会会報』(日本ジェンダー学会), 第25号, p. 1, 2013年12月.

VI. 教科書

1. *Issues in Bioethics* (共編著), 開文社出版, 122ページ, 2010年2月.
2. *Selected Short Stories by Thomas Hardy* (共編著), 開文社出版, 102ページ, 1992年2月.

VII. 科学研究費による研究課題 (すべて研究代表者)

1. 「英米児童文学におけるポストフェミニズム時代のヒロイン像」, 2020年度~2022年度, 基盤研究(C), 課題番号20K00416.
2. 「現代英米児童文学におけるジェンダーを超える女性像を提示する作品における男性表象」, 2017年度~2020年度, 基盤研究(C), 課題番号17K02504.
3. 「現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の意義」, 2014年度~2017年度, 基盤研究(C), 課題番号26370280
4. 「現代英米児童文学における男装——その意味と変遷」, 2011年度~2013年度, 基盤研究(C), 課題番号23520309

Ⅷ. 社会連携

講演

1. 「ヒロインは気立てが良くて控えめで？～おとぎ話と絵本で学ぶジェンダー～」, 「久留米市男女平等推進センター図書講座」(主催:久留米市男女平等推進センター), 2021年10月.
2. 「変化するヒロイン像! 助けを待つお姫さまってもう古い?」, 「男女共同参画基礎講座」(主催:糸島市男女共同参画センター), 2019年11月.
3. 「ディズニー作品に見るヒロインの変遷～シンデレラからモアナまで～」, 「子育てが変わる! 人生が変わる! “らしさ”の魔法を解く講座」(主催:糸島市男女共同参画センター), 2018年2月.
4. 「知らないうちにハマってる? シンデレラの罠!」, 「男女共同参画入門講座」(主催:糸島市男女共同参画センター), 2011年8月.
5. 「絵本の中のヒロインたち——シンデレラの罠?——」, 「大牟田市共同参画セミナー・地域パートナーシップ講座」(主催:大牟田市および小学校2地区PTA 母親委員会), 2004年10月.
6. 「絵本や漫画にみる女性像——文化面でのジェンダー——」, 「大牟田市秋の人権連続講座」(主催:大牟田市教育委員会), 2003年11月.

公開講座等

1. 「児童文学と人生の選択肢——ジェンダーと多文化主義の観点から——」, 九州大学大学院言語文化研究院公開講座「文学と人生」, 2013年11月.
2. 「ヘンな建築家は何を建ててきたのか?」, 「九州大学アイデア特区 百学連環 BAR #2」(主催:九州大学アイデアラボ), 2013年5月.(鼎談)
3. 「ジェンダーを考える」, 九州大学大学院言語文化研究院公開講座「言語と文化におけるジェンダー」, 2003年10月.

学会役職

1. 日本語ジェンダー学会
理事・副会長・学会誌副編集委員長(2016年4月～現在)
2. 日本ジェンダー学会
理事(2013年10月～現在)
3. 日本比較文学会 九州支部
幹事(2012年7月～現在)
4. 日本イギリス児童文学会(現・日本英語圏児童文学会)
学会誌編集委員(2012年4月～2015年3月)

初等・中等教育への貢献

1. 文部省教科書検定調査員(高等学校・外国語(英語)), 1994年度.